

地球環境基金 便り

Japan Fund for Global Environment Report



特集

SDGsで日本を変える世界を変える



② 巻頭インタビュー：小塚崇彦さん

④ 特集：SDGsで日本を変える世界を変える

⑩ CLOSE UP：「モノ」の効果から未来の可能性を探る

⑫ サポーターインタビュー：SGホールディングス株式会社

⑭ 地球環境基金のサポーター

⑮ 全国ユース環境ネットワーク促進事業



『エコプロ2017』に地球環境基金がブース出展しました！

地球環境基金は、昨年12月7日～9日に東京ビッグサイトで開催された「エコプロ2017」に出展。エコプロ来場者は3日間で16万人を超え、地球環境基金ブースにも多くの方々にお立ち寄りいただきました。

地球環境基金ブースでは「助成団体活動報告会」を開催し、55の団体が助成活動の成果発表を行いました。今回初めてエコプロにて活動報告会を開催し、より多くの方々に助成活動をお伝えすることができました。

SDGsワークショップ会場では、「環境ユース海外派遣研修～大学生から考える環境×SDGs～」の報告会を行いました。タイでSDGsの取り組みを学び、研修を通じて得た知識や経験を紹介した他、目標達成に向けた取り組みを提案しました。

イベントステージでは、「地球をまもる人になる～若手プロジェクトリーダー成果発表会～」を開催しました。フリーアナウンサーの柴田阿弥さんの進行で「若手プロジェクトリーダー育成支援プログラム」の3年目を迎えた2期生が、「プロジェクトリーダーとしての活動成果」、「団体のこれから」、「個人のこれから」について発表を行いました。会場からは、「若い人たちが環境にかかわる仕事に真摯に向き合っていることに改めて背筋ののびる時間でした」など、応援メッセージを多数いただきました。



基金ブースでの「助成団体活動報告会」の様子

ききんちゃん風船が大人気



海外派遣研修の報告会

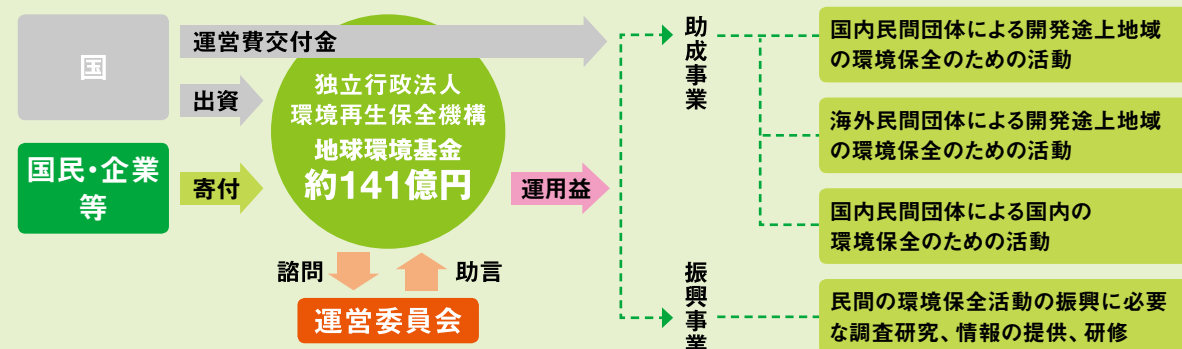


若手プロジェクトリーダーの成果発表会



地球環境基金とは

環境再生保全機構は、国の出資金と民間からの寄付金により「地球環境基金」を設け、その運用益と国からの運営費交付金により、国内外の民間団体（NGO・NPO）が行う環境保全活動へ支援を行っています。



表紙について

国内・海外どちらにも大きな影響を与えているSDGs。17の目標を象徴する印象的なロゴは、言葉の壁を越えて、世界中の共通言語として機能しています。SDGsの目標達成に向けた、市民団体・企業の活動がロゴとリンクする様子をイメージしています。

編集後記

今回の特集を通して、SDGsへの理解を深めることができました。環境課題への取り組みや効果は見えにくいものですが、SDGsという世界共通の目標を掲げることで、事業がわかりやすくなり、また、新たな連携の機会も増えるのではないかと思います。

FOLLOW ME!

Instagramはじめました！



@erca_kikin

ユース事業や助成団体の活動地域の美しい風景などをお伝えします。

Twitterこちらもよろしく！



@ERCA_kikin

イベント情報や講座・研修の案内、助成団体の活動などをお伝えします。

地球環境基金 便り

第44号 2018年(平成30年)3月1日号

発行／独立行政法人環境再生保全機構 地球環境基金部基金管理課
URL: <https://www.erca.go.jp/jfge/> E-mail: c-kikin@erca.go.jp
〒212-8554 神奈川県川崎市幸区大宮町1310番 ミューザ川崎セントラルタワー8F
TEL: 044(520)9606 FAX: 044(520)2192 編集協力／株式会社東京法規出版



独立行政法人 環境再生保全機構



リサイクル適性(A)
この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。



VEGETABLE OIL INK

小塚崇彦さん

スポーツを楽しめる環境に感謝し
恩返しをしたい

フィギュアスケート日本代表としてバンクーバーオリンピックに出場した小塚崇彦さん。競技を引退した今も、フィギュアスケーターとして、指導者や解説者として、また日本オリンピック委員会（JOC）アンバサダーとしても、幅広くスポーツ振興のための活動で活躍されています。「スポーツができるのは環境が整っているからこそ」と言う小塚さんに、フィギュアスケートを中心としたスポーツと環境について聞きました。

引退から2年たった今、現役時代を振り返ってみると、深く印象に残っていることが2つあります。1つはオリンピックです。オリンピックは他の大会と雰囲気が全く違いました。様々な競技のアスリートが集まる選手村、鳴り物を使った賑やかな応援など、オリンピックは本当に特別な大会です。もう1つは、2011年の世界

選手権です。この年は東京で開催される予定でしたが、直前に東日本大震災が発生。急遽モスクワで開催されることになりました。開会式では白いリンクに大きな日の丸が映し出され、スケーターが黙とうを捧げるなど、日本を応援する数々のセレモニーがありました。この大会の開会式は今でも忘れることができません。

リンクに投げ込まれる花は
寄付して有効活用

現役時代は特に環境問題への意識が高かったわけではありませんが、「もったいない」という考え方は自然に身についていました。フィギュアの大会で、演技終了後に観客がリンクに花やぬいぐるみなどを投げ入れますが、その後

Takahiko Kozuka

1989年愛知県名古屋市生まれ。5歳からフィギュアスケートを始め、世界ジュニア選手権優勝（2005/06）、グランプリファイナル2位（2008/09）、バンクーバーオリンピック8位入賞（10）など世界の舞台で活躍。16年3月現役引退を発表。現在、フィギュアスケーター、トヨタ自動車株式会社非常勤嘱託、JOCオリンピック・ムーブメントアンバサダーなど。

どうなるか知っていますか？ 集められた花やぬいぐるみは、全ていったん選手の元に届きますが、量が多くて持ち帰ることはできません。そこで僕は手紙だけを抜いて寄付していました。花は高齢者施設に寄付して飾ってもらったり生け花のレッスンに使ってもらったり。ぬいぐるみは保育園や児童養護施設などに寄付したり。僕だけでなく、日本のフィギュア選手ほとんどが同じような活動をしていると思います。

環境に負荷をかけるからこそ
副産物を大切にしたい

昨年「JOCスポーツ環境アン



2015年全日本フィギュアスケート選手権でのフリースケーティング（写真提供：ティエスティジャパン）



愛媛県で行われたスケート教室の様子（写真提供：ティエスティジャパン）

バサダー」を拝命しました。活動はまだこれからですが、「よい地球環境がなくては、スポーツは楽しめない」という考えのもと、スポーツを通じて環境保全のメッセージを伝える役目です。そもそもほとんどのスポーツは環境に負荷をかけています。スケートリンクをつくるには水と電気が大量に必要ですし、スキー競技は森林伐採などが問題になることがあります。

ではなぜスポーツをするのでしょうか。僕はスポーツって、人生をぎゅっと圧縮したようなものだと思います。たくさん失敗して、それでもまたチャレンジしてを繰り返すことで、失敗から這い上が

る力を身につけられます。また僕はスペシャルオリンピックスのサポーターとして知的障害者の方々と一緒にスポーツをすることがありますが、言葉が不自由でも競技中是不思議と意思疎通ができません。スポーツが共通言語になっているんですね。スポーツは人を成長させ、感動を与えてくれます。スポーツを楽しめる環境に感謝し、その素晴らしさを広く伝えることで恩返しをしていきたいです。

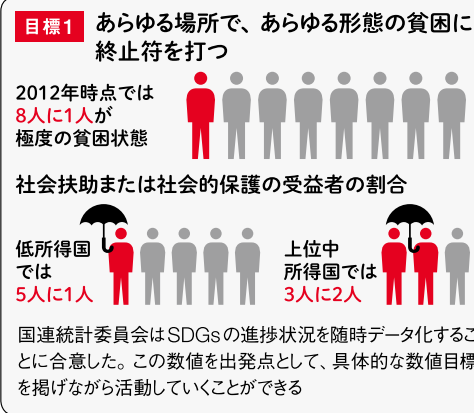
スポーツ振興も環境保全も
30年先を見据えた活動を

僕は今、フィギュアスケーター、解説者、トヨタ自動車非常勤嘱託社員など様々な肩書があります

が、活動の軸はスケート教室です。それも競技に勝つための教室ではなく、あくまで初心者向け。できるだけ噛み砕いて説明し、話しながら実際に滑って見せるので、職業を聞かれたときは「デモンストレーター」と答えています。今フィギュアはとても人気で、多くの人が見てくれます。ただ残念なことに、実際に滑ってみようという人は少なく、このままではいずれ人気は低迷してしまうでしょう。だから僕は、10年、20年、30年後のフィギュア界を見据えて、今は初めてリンクに立つ人たちにその楽しさや素晴らしさを伝えることに力を注いでいます。

環境問題も同じです。一気に問題が解決できるような方法はありません。全ては小さなことの積み重ねです。水道の蛇口をこまめに閉める。電気をつけっぱなしにしない。そんな小さな積み重ねが、10年、20年、30年後の環境に影響を与えるのだと思います。だからこそ自分も、日々の生活のなかで些細なことでも気をつけていきたいですね。

SDG 指標の例／



出典:国連広報センター「SDGs報告2016」

主でしたが、昨年あたりからは役員や幹部レベルの参加が増え、関心が急速に高まっていることがうかがえます。この背景には、ダボス会議に参加した経済界や企業のトップなどが、先述のような世界的な潮流を肌で体感していることがあると考えられます。

また国よりも地方自治体単位でのほうが、動きが加速しています。制約が少なく、SDGsへの取り組みを進めやすいからでしょう。重要なのは自治体の中に「キーパーソン」となる人物がいるかどうかです。首長でなくても職員の中である程度発言力を持つている人が声を上げ、活動の中心になることが、自治体としての取り組みの原動力になります。そういった人が積極的

企業・自治体は
NGO・NPOを待っている！

NGO・NPOには、ぜひ政府や自治体、企業のSDGsに対する取り組みを数値として評価することで「見張り」の機能を持つてほしいと考えています。先述の通りSDGsには進捗状況を常に評価・確認する指標があるので、これを活用して取り組みが単発のキャンペーンで終わらないよう、働きかけ続けてください。もう一つは、企業や自治体と積極的に連携をとっていただきたいです。団体がこれまで蓄積してきた知識や経験値は豊富なので、企業や自治体とコラボレーションすることで、双方にとって新しいアイデアが出てきて面白い活動を展開していくはずですよ。

例えば「エシカル消費」の観点で、企業が環境や人権、ジェンダーに配慮された方法で製品を生産しているかど

培った知識や経験値で 自治体・企業と連携を

に動いている自治体は、結果的に首長や幹部も巻き込んだ活動を展開できています。

うかのチェックをしてほしいと思います。もしも生産の背景に、SDGsの目標に反する要素があれば、それは企業にとって大きなリスクとなる時代です。例えば、NGO・NPOが化粧品会社と連携して、石鹸の生産がエシカルに行われているか監視し、それを双方でアピールしていかげでしょうか。団体側は活動目的に沿った取り組みが現実的に行えますし、企業側は製品の安全性・倫理性を強調することができ

また、自治体との連携例としては、限界集落^④と呼ばれるような地域で、NGO・NPOが会員を巻き込みながら自治体と一緒に森の観光ガイドを行ってはいかがでしょうか。森林や生物多様性の保全活動と、「持続可能な自治体の運営」にも一役買うことができます。企業に比べて自治体は特に、地域のノウハウが詰まったNGO・NPOを必要としていることが多いので、積極的なコラボレーション展開に期待しています。

慶應義塾大学 教授 蟹江憲史さん

慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科教授、国連大学サステイナビリティ高等研究所(UNU-IAS)シニアサーチフェロー。専門は国際関係論、地球システム・ガバナンス。2012年度のFSを経て、2013年度から2015年度まで環境省環境研究総合推進費戦略研究プロジェクトS-11(持続可能な開発目標とガバナンスに関する総合的研究プロジェクト)プロジェクトリーダーを務めた。



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

2015年9月に国連サミットで採択された「SDGs」は、持続可能な世界を実現するための17の目標と169のターゲットを示し、2030年を目標に見据えた全世界の共通指標となりました。統括インタビューでは、国際関係論、地球システム・ガバナンスを研究されている慶應義塾大学の蟹江憲史教授に、SDGsを市民社会に反映させるためにNGO・NPOはどんな取り組みが必要なのかを伺いました。

統括インタビュー

これまでにはなかった 理想ベースの目標設定

SDGsが発効されたことの意義は大きく3つあります。まずは17の目標、169のターゲットと間口を広く設けたことで、より多くの人が共有できる到達点を設定できたことが挙げられます。これだけ包括的なテーマを掲げ、かつ国連に加盟するすべての国々が合意したこと、SDGsは歴史的にも画期的な国際目標としての位置づけになりました。2つ目は、SDGsが「目標ベースのガバナンス」と呼ばれるほど、野心的な理想の未来像を目指しているという点です。目指すべき未来の状態を想定し、それを基準に現在を振り返って今何をすべきかを考え動いていく。この発想を世界レベルで掲げたことは、時代の流れの転換点になると思います。そして3つ目はSDGsには進捗状況を知るための指標があることです。恒常的に到達点を確認できる機能が備わっているため、これまでよりも数値目標を掲げやすく、積極的に取り組んでいくことができます。

国内でも活発化の 兆しが出始めている

ではSDGsの取組状況や意識の普



あらゆる分野をまたいだ目標を国連が掲げ、全加盟国が賛同していることの意義は大きい。日本国内でも意識の改変と早急な取り組みの促進が急がれている

及はどうか。すでに欧州では民間企業が事業目標としてSDGsの目標を直接掲げているほど、高い意識水準に到達しています。また「世界経済フォーラム会議(通称ダボス会議)」のような国際会議の場面では、社会の動きがIoT^②で加速しながらも、進んで行く方向が見えにくいことが課題になっています。そこでSDGsが普遍的な目標として、世界的な動きの方向付けとして認識されるようになっていきます。対して日本は、政府政策の中でSDGsのテーマに対して担当する省庁を羅列して当てはめているだけの段階です。それでも、ニュースにSDGsの話題が上るなど、国内での認知度は少しずつ上がってきている印象です。また、企業と自治体のSDGsに向けた動きは活発になり始めています。これまでSDGsの勉強会や講演に出席していたのは企業のCSR担当部署が

SDGsとは?

「Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標)」の略称で、国連加盟193か国が2016年～30年の15年間で達成するために掲げた目標です。「誰ひとり取り残さない」という基本理念に基づき、17の目標と169のターゲットで構成されています。SDGsは開発途上国だけでなく全ての国に適用される目標であり、先進国も積極的に取り組むことが求められています。

世界を変えるための17の目標

- | | | |
|-----------------|----------------------|------------------|
| 1 貧困をなくそう | 6 安全な水とトイレを世界中に | 11 住み続けられるまちづくりを |
| 2 飢餓をゼロに | 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに | 12 つくる責任 つかう責任 |
| 3 すべての人に健康と福祉を | 8 働きがいも経済成長も | 13 気候変動に具体的な対策を |
| 4 質の高い教育をみんなに | 9 産業と技術革新の基礎をつくる | 14 海の豊かさを守ろう |
| 5 ジェンダー平等を実現しよう | 10 人や国の不平等をなくそう | 15 陸の豊かさを守ろう |

- 16 平和と公正をすべての人に
17 パートナリシップで目標を達成しよう
- すべての目標とターゲットの一覧は国連広報センターホームページで確認できます。

ECO WORD

やさしいエコワード講座

- ①ダボス会議……毎年スイスのダボスで開催される、世界経済フォーラム(WEF)の年次総会。世界中から政財界のトップや学者が参加し、世界経済や環境問題など幅広いテーマの意見交換を行う。
- ②IoT……PCやプリンターなどのIT関連機器が接続されるインターネットに、それ以外のあらゆるモノを接続し、制御・情報を活用すること。
- ③エシカル消費……人や環境負荷への配慮、社会貢献を重視して生産された製品やサービスを、消費者が選んで購入・利用すること。
- ④限界集落……高齢化や過疎化によって、冠婚葬祭をはじめとした経済的・社会的な共同生活の維持が困難になっている集落のこと。

全9回のワークショップの成果を
まとめた冊子



冊子は団体のホームページからダウンロード可能ですのでぜひご覧ください。



た目標になりがちだと私は感じていま
す。今回私たちは「行政施策の範囲で
実現可能かどうか」ではなく「やりた
いこと、目指したい地域の姿」を優先。
願望や理想を基盤にした地域目標を設
定し、そこを活動のスタート地点にし
たかったのです。

こうした私たちの活動を実際の社会の
変革に結び付けていくためには、自治体
の計画や政策に反映させていくことが必
要です。しかしそこに至るためのアプ
ローチは、自治体側に受け止める素地が
あってようやく実現するもので、決
して簡単ではありません。

札幌市の場合、環境部に熱心な職員
がいて、以前から私たちと連携を取っ
ています。SDGs普及啓発の必要性を
訴える私たちの声にも耳を傾けてくれ、
その甲斐もあってか、平成30年度から始
まる「第2次札幌市環境基本計画」の案
には、SDGsに関する記述が含まれて
います。またその職員がキーパーソンと
なり、市主催のSDGs啓発イベントも
開催。市長もパネリストとして参加する

SDGsをきっかけに、
全国のNPOが動き出す

ワークショップで話し合った目標案
は、昨年、『SDGs 北海道の地域目
標をつくろう』と題した小冊子にまと
めました。このまとめを振り返ってみ
ると、今回のワークショップで参加者
から出た理想の地域目標は、意外にも
国連が掲げる目標とターゲットに近いも
のになった印象です。SDGsが地域
を選ばない、普遍的なものであること
を再認識しました。

など、今、札幌市はSDGsの普及啓発
に活発に動いています。

2017年11月には、「SDGs市民
社会ネットワーク(※)」「超党派NPO
議員連盟」「北海道NPOサポートセン
ター」と私たちの団体の共催企画で、
「NPOとSDGsに関する学習会」を開
催しました。このような機会をつくり、
NPOの活動を自治体や議員に紹介する
ことが行政の意識を変え、政策提言の大
きなきっかけになると期待しています。

一方で、国内のNPOの間でも、
SDGsへの理解を深め、意識を高め
ていく必要があると感じています。環
境や人権、貧困など、団体にはそれぞ
れが掲げる問題やテーマがあり、これ
までバラバラに活動してきましたが、
実はそれらのテーマは根底でつながっ
ています。それを結び付けられるのが
SDGsであり、NPOが協働してい
くことが大切なのではないでしょうか。

冊子『SDGs 北海道の地域目標
をつくろう』は、17年3月に2500
部印刷し、関連団体や全国7か所の
RCE(持続可能な開発のための教育
に関する地域の拠点)などで配布しま
した。ありがたいことに予想以上に冊
子を希望する人が多く、2500部は
早々になくなり、10月に増刷しました。
北海道の地域目標にもかかわらず、道



2017年11月に札幌市で開催された、「NPOとSDGsに関する学習会」の様子

(※)SDGsの実現に取り組むNGO・NPOなど市
民社会のネットワーク。
<https://www.sdg-japan.net/>

今後はこの地域目標案を生かしてい
くために、引き続き積極的な政策提言
をしていきたいと考えています。

外からの問い合わせが多かったことも
意外でした。「自分たちの地域でもや
りたいので、この冊子をヒントにした
い」というのです。SDGsをきっかけ
に、日本のあちこちでNPOが動き
出そうとしていると実感しました。私
たちもまた、他地域でどんな活動がさ
れているのかを知りたいですし、何
かの形でつながることができればと思っ
ています。

団体名 特定非営利活動法人 さっぽろ自由学校「遊」

北海道札幌市 <http://sapporoyu.org/>

活動名 北海道(道央圏)におけるSDGsローカル・ アジェンダの策定とESD地域拠点形成

団体が取り組むSDGsの目標



1回に1テーマを取り上げ、全
9回にわたってワークショップ
を開催した

地域住民の思いを政策に反映させるために

“実現可能かどうか”よりも
“理想”を地域の目標にしたい

SDGsを私たちが住む地域に反映
させ、私たちの活動に結びつけてい
きたい。そんな思いから、SDGsをベ
ースにした独自の地域目標や行動計画
(ローカル・アジェンダ)の策定に動
き出しました。

まずSDGsの17ある目標をベー
スにして、北海道の地域性にあうテー
マを9つ設定。2016年に1年かけて、
「北海道の地域目標を考える市民ワー
クショップ」を開催しました。

9つのテーマー

- 貧困と格差(目標1に対応)
- 労働と雇用/消費と生産
(目標8、12に対応)
- ジェンダー/マイノリティ
(目標5、10に対応)
- 北海道と先住民族(目標10に対応)
- エネルギー(目標7に対応)
- 気候変動/海洋資源
(目標13、14に対応)
- 生物多様性(目標14、15に対応)
- 質の高い教育/ESD
(目標4に対応)
- 国際協力と平和(目標16、17に対応)

希望者は誰でもワークショップに参
加できるようSNSなどで告知したと
ころ、毎回10〜20人ぐらいが集まりま
した。若い人の参加も多く、幅広い年
齢層で話し合うことができました。

ワークショップではSDGsはあく
まで動機付けの一つとしてとらえ、参
加者一人ひとりが元から持っている
「貧困をなくしたい」「環境を守りたい」
などの思いを「地域の目標案」として
自由に語ってもらいました。これまで
も国連をはじめとした様々な国際機関か
ら、目標や指標が示されてきましたが、
多くの場合、国連から政府へ、政府か
ら地方自治体へとおりてくると、政府
や自治体が可能である範囲で妥協し



団体の理事・事務局を務める小泉雅弘氏。活動の中心として、周囲の人
を巻き込みながら北海道地域でSDGs普及に尽力する

団体名 特定非営利活動法人 Little Bees International

📍東京都荒川区 🌐 <https://www.littlebeesinternational.org/>活動名 コロゴッチョスラムのコミュニティスクールを中心とした
循環型社会形成のための総合環境教育活動(ケニア共和国)団体が取り組む
SDGsの目標

スラムにおけるSDGs達成のモデル地区を目指す



地域の中心部を流れるナイロビ川河川敷の緑地化率30%を目指して、植樹を続けている

逆境に負けない
自助努力の地域づくり

ケニアの首都ナイロビにあるコロゴッチョスラムは、1980年代まで都市のゴミ捨て場だった場所に形成されたスラムです。スラムが多いケニアの中でも、特に差別的な扱いを受け、長い間、国際機関やNGOの支援も滞っていました。私たちはそんなコロゴッチョスラムの住民たちと共に、SDGsが掲げる「誰一人取り残さない」社会を実現するために、次のような活動をしています。

- ① コミュニティスクールを含む地域での環境教育
- ② 地域の環境リーダーの育成
- ③ 環境美化活動(ごみの分別回収)
- ④ 緑地化運動

組織的・計画的な活動が
SDGs達成への道

コロゴッチョスラムで活動を始めてから約4年。環境教育活動ではユース世代の環境課題理解度が6割を超え、緑地化運動の植樹は4000本を超えました。もちろん順調ではない課題もあります。スタッフを配置してごみの分別回収活動を推進したモデル地区では、地域住民によるプラスチックごみの分別意識が根付いたものの、それ以外の地区ではま

だまだです。分別意識が根付くには、組織的・計画的な活動の継続が必要です。地道な活動の蓄積により、少しずつではありますが、コロゴッチョスラムはSDGsの目標達成に向かっていきます。将来的にこのスラムがケニアの、そしてアフリカ全域のSDGs達成のための環境モデル地区になれるよう、さらなる事業のスケールアップを目指しています。

ECO WORD

やさしいエコワード講座

- ① 10YFP……10-year framework of programmes on sustainable consumption and production patternsの略称。2012年に国連で採択された、持続可能な消費と生産に関する10年計画の枠組み。低炭素型ライフスタイル・社会システムの確立を目指す。
- ② Mottainai……環境分野で初めてノーベル平和賞を受賞したケニア人女性、ワンガリ・マータイ氏が来日した際に「もったいない」という日本語に感銘を受け、世界共通語として広めることを提唱した。

団体名 一般財団法人CSOネットワーク

📍東京都新宿区 🌐 <https://www.csonj.org/>活動名 持続可能な公共調達慣行の促進に向けた調査
および指針の策定とその普及団体が取り組む
SDGsの目標

SPPの情報発信・意見交換のハブを目指す

「持続可能な公共調達」が
日本を大きく変える

私たちの団体は、「一人ひとりの尊厳が保障される、公正で持続可能な社会の実現」を目標に、国内外の市民社会組織とのネットワークを通じた調査・研究、情報発信、セミナー・イベント開催、提言活動などを行っています。今、私たちは「持続可能な公共調達(Sustainable Public Procurement以下SPP)」を日本の自治体に普及させるための調査研究を進めています。SPPとは「社会や経済に良い影響を与え、かつ環境負荷を最小化する製品やサービス、労働で公共調達をする」ことです。目標12「持続可能な消費と生産」内のターゲット「持続可能な公共調達の慣行の促進」として



国分寺市副市長、内藤達也氏(写真中央)への表敬訪問。同市が2012年に制定した地域づくりの視点を反映させた先進的な公共調達について、導入の経緯などを伺った

SPPを普及させるために
私たちができること

私たちは、まずSPPの世界の動向を把握するために、SPPに関する国際的な枠組み(10YFP①など)への参画や、先行する海外自治体の調査などを行い、昨年、調査報告書『SDGs時代における持続可能な公共調達 世界の潮流と日本の動向』にまとめました(団体ホームページで全文閲覧可)。海外のSPPの広がりと日本を比較すると、その遅れが目立ちます。EUは14年に新しい公共調達指令を出し、持続可能性を調達政策に反映しました。アメリカでは企業のサプライチェーンを透明化させる政策が進んでいます。一方、日本は世界に先駆けて2000年にグリーン購入法を導入して以降、目立った進展がありません。今も自治体の公共調達は、最低価格での調達が原則です。「環境」と「価格」以外の要素、つまり「経済」や「社会」的な

持続可能性を、公共調達の評価指標に反映させる潮流がなければ、SPPの普及は難しいでしょう。

そんな中でも、横浜市や国分寺市など、地域社会への貢献に配慮した独自の調達政策を取り入れる自治体が出てきており、注目しています。SPP普及のためには、こうした先進事例を他の自治体と共有することが重要です。私たちは既に横浜、国分寺の両事例の調査などもしているので、研究会などを通じて情報を共有していきたいです。いずれは私たちがSPPの情報発信・意見交換のハブ機能を果たせるようになりたいと考えています。また、SPPを日本で普及させるためのポイントをまとめ、手引きとして使えるツールを作成することも目標です。



ロンドンオリンピック・パラリンピックにおける持続可能な調達に関する調査ツアーに参加。ロンドンの教訓と、東京への期待を関係者からヒアリングできた



デニム工場から出る余った生地を再利用したバッグづくりのリサイクル事業には、HIV陽性・シングルマザーの女性を中心に現在40名以上が参加している



花モザイク。福島県南相馬市原町共生授産園で製作

南三陸大型花モザイクの製作現場。材料は現地調達できる大理石などのほか、被災住宅の木材やがれきもリサイクルして活用。被災地の「過去」と「未来」をつなげる役割も果たしている

特定非営利
活動法人 **エコ平板、防塵マスク支援協会**



活動名

理事長 橋田 隆明さん

活動に欠かせない「モノ」から
その効果と未来の可能性を探る

特定非営利
活動法人 まる せつぶ 丸瀬布昆虫同好会



活動名

副理事長 浅利 誠さん

がら楽しく作業した」と浅利さんは振り返る。

4か月後、子どもたちと一緒に中の木を取り出して観察したところ、「ハサミムシ」「ハチ」「ワラジムシ」など7種88匹の虫が確認できた。初めは嫌がって遠くで見ていた子どもも、他グループの「いたー!」という声に刺激を受け、自ら木を持って虫を探すようになった。「見つけたときの笑顔が最高だった」と浅利さんは言う。

これまでに4棟の虫のいえが完成し、この春にもう一棟建設予定だ。虫を入り口にして身の回りの豊かな自然を体感し、自然を守り地域で生きる子どもを育てたい。それが浅利さんたちの目標だ。

虫のいえ

中に入れている木材は地元の山から切り出したもの

子どもと一緒に観察。新しい木より古い木に多くの虫がいたため、子どもたちから「もっと傷んだ木が欲しい」と声が上がった

特定非営利
活動法人 ニッポンバラタナゴ高安研究会



活動名

代表理事 松浦 義彦さん

八尾市内の自然食販売所やイベント時におにぎりとしても販売している。収益は魚の保護活動に役立てるだけでなく、同会が農家から直接購入・販売してコストを削減し、より多くの利益を農家に還元している。米の評判は上々で、少しずつ注文は増えているが、ため池の水を利用する農家が限られているため、今すぐ増産を望むのは難しい。松浦さんは「きたい米が地域ブランドとして確立されれば、生産農家が増え、ニッポンバラタナゴが息息するため池に付加価値がつく。それにより放棄されたため池が保護池へと生まれ変わり、ニッポンバラタナゴの保護につながっていけばと考えている」と期待を語る。

きんたい
米



“ぎんたい”とは、高安地域で古くから使われてきたニッポンバラタナゴの地域名称。米袋にもしっかりニッポンバラタナゴの写真が印刷されている



みんなで握った“きんたいおにぎり”

Three bottles of Moringa Oil and three packets of Moringa Tea are displayed. The bottles are dark brown with black caps and white labels that read 'MORINGA OIL', 'Product of Myanmar', and 'Shin'. The packets are white with green accents and also read 'MORINGA TEA', 'Product of Myanmar', and 'Shin'. A yellow circular graphic with the text 'モリンガ加工品' (Moringa processed products) is overlaid on the image.

「モリンガシードオイル」(左)と「モリンガティー」(右上)。オイルはオレイン酸が豊富で美容オイルとして人気があり、お茶はデトックス作用が期待できるという



モリンガ加工品

モリンガの木

今事業3年間で、
村人や僧院学校
の生徒など280人
が植林に参加した

特定非営利
活動法人 **地球市民の会**



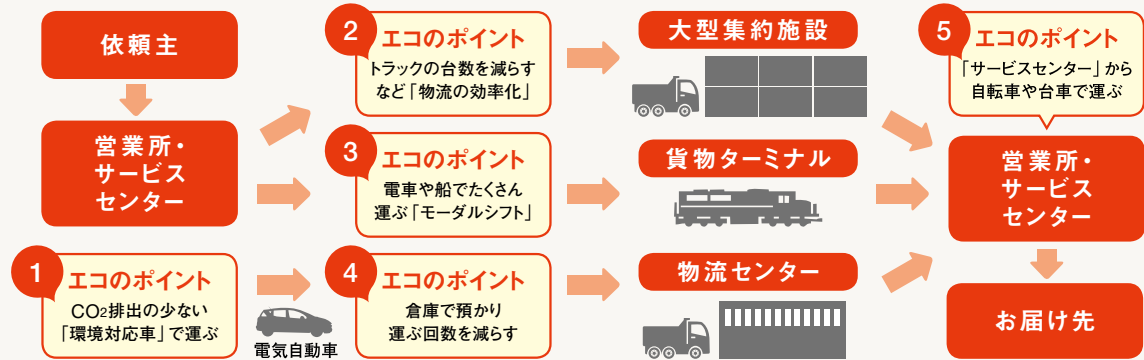
活動名

プロジェクトマネージャー 柴田 京子さん

モリンガは昔からミャンマーに自生していたものの、これまではあまり注目されてこなかった。しかし同会の研修を通じて、地域住民の間でモリンガにとっても栄養があり、環境保全にも役立ち、さらに換金できるということが広く知られるようになった。その結果、地元でモリンガ植林に対する意識が高まり、自主的に植林するケースも増えているという。「今後はミャンマーの地元の人にも市場を広げ、モリンガから安定した収入を得られるようにしていきたい」と語る柴田さん。今以上に住民の植林への意欲が強まり、モリンガで持続可能な植林が進むことが期待される。

注目の
ヒト・モノ・コトを
お伝えします

配送システム全体でCO₂排出量を減らす取り組み



トラックを走らせる限り、CO₂排出量削減は最大のテーマです

SGHは「全国ユース環境ネット

環境教育で豊かに育つ 一人ひとりの環境意識

紹介した以外にも様々な取り組みをしているSGHですが「まだまだやれることはあります」と依田さんは言います。例えば、17年には旭川市のタクシー会社との提携を開始しました。乗合タクシーの空いている時間帯に、配達業務を担ってもらおうという取り組みです。輸送トラックの台数削減、地域の交通インフラの維持、輸送にかかる労働力確保といった問題を同時に解決できる新たなソリューションとして注目を集めています。「環境保全はもちろんです、少子高齢化への対応や地域の活性化といった社会の課題にも、グループ全体で取り組んでいきます」

環境問題と地域の課題の 両方を解決していく

ほかにもSGHは、通常は別々の場所で行う保管や物流加工などをすべてSGH施設内で実施することで運送回数を削減したり、サービスセンターから自転車や台車で配送したりと、配送システムの随所でCO₂排出量削減に取り組んでいます。



SGホールディングス株式会社

SGホールディングス株式会社は、佐川急便を中核とした総合物流企業グループ・SGホールディングスグループ全体の経営戦略や管理、それらに付帯する業務を担う会社です。SGホールディングスグループは、日本の物流業界のリーディングカンパニーとして積極的な環境負荷低減策を展開しています。今回はその中でも、CO₂排出量削減への取り組みについてお話を伺いました。



配送システムを見直して CO₂排出量を削減！

SGホールディングスグループ（以下、SGH）の事業の中核は「物流」、つまりモノを運ぶことです。古くは飛脚が足で荷物を運んでいましたが、現代はトラックや飛行機を使って運ぶため、物流には常にCO₂の排出という問題が伴います。持続可能な社会の発展に向けて、いかにして物流における環境負荷を減らしていくか——SGHは、配送システム全体でのCO₂の排出量削減に取り組んでいます。

まずは、街なかでもよく見かける佐川急便のトラックです。SGHは早くから運送用車両に環境対応車の導入を進め、2011年にはトラック部門で天然ガストラック保有台数世界一に認定されました（国際天然ガス自動車協会調べ）。最近では、より環境負荷を低減させるハイブリッドトラックや電気自動車の導入も進め、グループ全車両台数の約4割を占める9172台が環境対応車になっています（16年度）。総務部広報・CSRユニットの依田桃子さんは「総合物流企業としてトラックを走らせる以上、できる限りの環境配慮をしていくことがグループの使命

だと考えています」と語ります。

「物流の効率化」にも取り組んでいます。例えば大規模ショッピングセンターや量販店に対して、商品をSGHの中継センターや営業所に集約し、そこで事前にアイテムや階層ごとなどに仕分けをしてから納品する方法を提案。仕入れから入荷までの輸送の全工程を効率化することで、トラックの台数や運行時間を大幅に抑えることができています。「ただ依頼された荷物を運ぶだけではなく、より効率的に運び届けるサービスを提供したいと考えています」

コンテナ列車の運行で 環境負荷を大幅に低減

もう一つ注目したいのが「モーダルシフト」、つまりトラックによる貨物輸送を、地球に優しく、大量輸送が可能な鉄道や船舶に転換していくことです。佐川急便は04年から日本貨物鉄道株式会社との共同開発によって誕生した特急コンテナ列車「スーパーレールカーゴ」による宅配便輸送を実施しています。東京／大阪間を毎日深夜に上下1便ずつ運行。1便の合計積載量は10トントラック28台分に匹敵するため、CO₂の大幅削減の実現につながっています。

企業情報

SGホールディングス株式会社



SGホールディングスグループは、「デリバリー」「ロジスティクス」「不動産」および自動車整備事業などの「その他」の事業分野でビジネスを展開しています。

本社所在地 京都市南区上鳥羽角田町68番地

お問い合わせ先 上記住所までご連絡ください

URL <http://www.sg-hldgs.co.jp/>



自社で保有・管理する森林での散策や間伐体験、間伐材を使った箸づくりなどの自然体験学習には、年間約500人の参加者が訪れる



子どもたちに自然の恵みや食物の大切さ、水田が育む豊かな生態系を知ってもらうために稲作体験を実施



自社で集荷・配達に使用するトラックの多くを環境対応車に切り替えている。今後はさらに環境負荷低減効果の高い自動車を導入していく

全国ユース環境ネットワーク促進事業の報告

「全国ユース環境ネットワーク促進事業」は、持続可能な社会の担い手を育成するために、環境活動を実践している全国のユース世代(高校生を中心とした若者世代)が、交流や活動を通じて得た学びを共有し、互いに啓発することにより、更なる可能性を引き出すことを目的としています。主な活動として、全国発表大会の開催、セミナーやフォーラムなど環境イベントの実施、企業環境研修、環境情報誌の発行などがあります。今回は、第2回全国発表大会 環境再生保全機構理事長賞の副賞である北海道研修と近畿地区で開催したセミナーの様子をお伝えします。

第2回全国ユース環境活動発表大会 環境再生保全機構理事長賞 副賞 北海道研修レポート

参加団体 慶應義塾湘南藤沢高等部 有志団体 環境プロジェクト

昨年2月に開催した「第2回全国ユース環境活動発表大会」において、「環境再生保全機構 理事長賞」を受賞した慶應義塾湘南藤沢高等部の生徒4人が、国内環境研修として北海道を訪れました。今回、受賞した有志団体環境プロジェクトの活動が、小学校での出前授業の企画運営であったため、幼稚園児向けの環境プロ

グラム作りと実践活動を組み入れました。小学生と園児では学び方が異なり事前に準備したようにいかない部分もあったようですが、研修を通して、知識を与えるだけでなく、子どもたちの気持ちを引き出し、子どもたち自身が考える授業をやっていきいたいという、今後の学びにも繋がりました。



北海道の自然を体感



沼にどんな生き物がいるのか興味津々

研修概要

日程：平成29年8月28日(月)～30日(水) 2泊3日
訪問地域：北海道勇払郡安平町、苫小牧市
運営委託：いぶり自然学校
プログラム：○園児向けの環境プログラム作りと実践活動
○酪農家にホームステイし、酪農・畜産体験など

近畿地区 高校生SDGsセミナー

～持続可能な開発目標(SDGs)実現のための企業の取り組みを学ぶ～

参加高校 滋賀県立八日市南高等学校、京都府立桂高等学校、大阪府立園芸高等学校、大阪府立平野高等学校、関西創価高等学校、関西学院千里国際中等部・高等部、兵庫県立神戸商業高等学校

昨年10月、近畿地区の高校生が一堂に集まり、「持続可能な社会」について学ぶ研修を行いました。基調講演と事例紹介では、SDGs達成のための企業の具体的な取り組みを知ることで、ユース世代として、消費者として、できることを考える機会となりました。さらにワークショップでは、「もし、ドラえもんが2030年の世界

から来たら」という議題で、今、SDGsに取り組まなければ2030年はどうなるかを考え、その問題を解決するためのアイデアを話し合いました。環境について興味のある同世代との交流は、有意義な機会だったとの声がありました。今後もこのような高校生同士の交流する場を提供していきます。

セミナー概要

開催日：平成29年10月22日(日)
研修内容：○基調講演「2030年の私たちの未来を創造してみよう～もしドラえもんがSDGsを知ったら～」株式会社クリーン 代表取締役 園田綾子氏
○事例紹介「キリンの取り組み」キリン株式会社SV戦略部シニアアドバイザー 藤原啓一郎氏
○ワークショップ
協賛：キリン株式会社
協力：株式会社クリーン、大阪大学環境サークル GECS
事務局：特定非営利活動法人いけだエコスタッフ



初めて会う生徒同士でも活発に意見交換

参加してくれた高校生の皆さん



地球環境基金のサポーター

地球環境基金をご支援くださった方々

地球環境基金に、平成29年7月から12月末までにご寄付・ご支援くださった方々は下記のリストのとおりです。個人や企業・団体としてご協力いただいた方はもちろん、さまざまなイベントを通じて募金活動にご参加・ご協力いただいた大勢の方々に深く御礼申し上げます。

平成29年7月から12月末日現在までに412件、総額**5,851,279円**のご支援をいただきました。ありがとうございました。

個人

阿部 美智子
荒井 進
飯田 浩二
飯田 登代子
五十嵐 真由美
石井 宏作
石井 安子
石川 拓也
石黒 遥
伊藤 孝司
伊藤 文子
伊藤 與志子
井上 仁
井上 雅晴
江川 純
大熊 美智子
大山 美民
岡野 香代子
岡野 誉大
岡野 義幸
岡本 昇
笠井 洋
梶ヶ谷 紗稀
片岡 真一
加藤 勝彦
加藤 信幸
門畑 裕美子
神野 政祐
川野辺 林
草薙 智紀
組谷 雅一
國松 志帆
久保 洋
窪木 体子
藏重 徹雄
倉嶋 江実
小出 伸雄
小林 聡子
小林 大
佐藤 忠智
佐野 郁夫
佐橋 浩二
篠原 泰
嶋元 誠

千田 昌子
宋 真美
タイラ マキコ
高橋 浩二
竹内 洋司
田坂 英樹
谷山 正恵
績 成朗
富岡 寛明
仲宇佐 由有子
中島 一雄
中島 光男
長濱 直
中村 亨
荷方 利幸
西久保 裕彦
西山 珠枝
二ノ宮 とし子
野口 皓生
野田 好和
土生 亜紀子
日比野 静男
日向 重友
藤岡 俊輔
藤田 周一
富士原 秀二
星野 正明
牧志 明
斑目 和典
松田 美由紀
松本 大
湊 亮策
宮田 佳歩
村岡 千秋
モチダ ラオム
望月 温
安田 知枝子
山川 徳子
山本 恭子
吉田 一博
吉田 実
吉田 寧
米田 高春

株式会社アクセル
イーパートナーズ株式会社
有限会社インターリンク
株式会社エースランドリー
SGホールディングス株式会社
奥野製薬工業株式会社 東京支店
オリンパス株式会社
オリンパスグループ
協栄産業株式会社
キリン株式会社
五島冷熱株式会社
株式会社J-WAVE
JNC株式会社
株式会社七豊物産
株式会社ジャパンクリエイト
シンワ空調サービス株式会社
セイワエステート株式会社
株式会社そごう・西武
有限会社第一環境
大和ハウス工業株式会社
株式会社橘フォーサイトグループ
TerraCycle Japan 合同会社
東京地下鉄株式会社 総務部環境課
日本リライアンス株式会社
能勢電鉄株式会社
ファミリーマート 八王子甲州街道店
株式会社富士通エフサス
ブックオフコーポレーション株式会社
三井住友海上火災保険株式会社
株式会社京平

国・地方公共団体

田舎館村役場 住民課
岩見沢市役所 環境部環境保全課
雲南市役所 大東総合センター
大牟田市役所
小山市役所 環境課

上富良野町役場 町民生活課生活環境班
久慈市役所 市民生活部生活環境課
西都市役所 生活環境課
坂井市役所 三国支所地域振興課
山陽小野田市役所 市民生活部環境課
上越市役所 環境保全課
鶴岡市役所 温海庁舎市民福祉課
彦根市役所 生活環境課
富士市役所
由利本荘市役所 西目総合支所市民福祉課

その他

会津若松市環境フェスティバル実行委員会
特定非営利活動法人あそびとまなび研究所
板橋区立エコポリスセンター
いばらき環境フェア2017 梅花女子大学茶道部
岩倉市環境フェア実行委員会
エコプロ2017
エコロジーマーケット実行委員会
かわさき環境フォーラム
環境デーなごや2017
グローバルフェスタJAPAN2017
小平市ごみ減量推進実行委員会
こども霞が関見学デー2017
ジェラテリア・スミヤ
東京農業大学 生活協同組合
特定非営利活動法人登別自然活動支援組織
モモンガくらぶ 理事長 松原條一
(五十音順・敬称略)

※このリストは、地球環境基金への振込通知書等に記載された名称・氏名に基づき作成しておりますので、個人および企業・団体等の区別につきまして必ずしも正確ではない場合があります。また、紙面の都合により、ご寄付・ご支援くださったすべての方々のお名前を掲載できない場合もございますので、ご了承ください。

「地球環境基金便り第44号」 読者アンケートにご協力ください。

アンケートは、このページのアンケートはがき、およびホームページ「地球環境基金の情報館」のアンケートページ(<https://www.erca.go.jp/jfge/info/publicity/tayori/form/44.php>)において受け付けております。皆様のご意見・ご要望をお聞かせください。

PRESENT

アンケートにお答えいただいた方の中から抽選で10名様に、地球環境金オリジナル・エコバッグをプレゼント(応募締切：平成30年8月末)。当選者の発表は、プレゼントの発送をもって代えさせていただきます。



■ ご寄付講座のご案内 「地球環境基金」へのご寄付は、下記口座より受け付けております。 お振込みの手数料は無料です。

銀行名／支店名	口座番号	口座名称
ゆうちょ銀行	00190-664214	地球環境基金
新生銀行／本店	普通預金 0789699	独立行政法人 環境再生保全機構 地球環境基金
三井住友銀行／東京公務部	普通預金 3013615	
三菱東京UFJ銀行／本店	普通預金 7637448	
みずほ銀行／本店	普通預金 2413416	
りそな銀行／赤坂支店	普通預金 1023850	

同一金融機関でのお振込みについては、取り扱い窓口でお申し出ください。
①独立行政法人環境再生保全機構は、特定公益増進法人に指定されており、税制上の優遇措置を受けることができます。
②ゆうちょ銀行以外からの銀行からお振込みいただく場合は、領収書が発行できません。領収書の発行を希望される方は、お手数ですが、地球環境基金部 基金管理課(TEL:044-520-9606)へご連絡ください。
■この他にも、クレジットカードを利用したご寄付など、多様な寄付方法をご用意しています。詳しくはウェブサイトをご覧ください。
地球環境基金の情報館 <https://www.erca.go.jp/jfge/>